

三木特産工業技術研究会 平成19年度11月移動例会レポート

開催日：平成19年11月30日（金）

見学先：八鹿鉄工株式会社 & 黒川温泉

場 所：養父市八鹿町朝倉200

参加者：27名



道の駅みきに11時集合、バスにて一路但馬へ。車中にて昼食をすませ、予定通り午後1時きっかりに八鹿鉄工さんに到着しました。3時半まで懇切丁寧に工場見学をさせていただきました。そのあと、生野溪谷を眺めながら、閑静なたたずまいの黒川温泉に到着、ゆったりと温泉につかり、一年間の疲れを癒すとともに、ボタン鍋を囲みながら会員同士の情報交換と親睦を深めました。

八鹿鉄工さんはコンバインをはじめ各種の農業機械に装着するアタッチメント、除雪機、生ゴミ処理機など、生活関連機器を中心に開発と製造を行っている会社です。昭和16年に創業された時は「押し切り」と呼ばれる手で使う藁（わら）切り道具を考案され、売り出されたのが最初といわれます。その後、エンジンを取り入れ、わらを切る道具から機械へと転換し、八鉄式動力わら切り機と呼ばれるようになりました。その売れ行きたるや凄かったようです。当時、全体を赤色で統一した八鉄式わら切り機は、八鹿駅から列車に積み込まれ、全国に出荷されましたが、遠くから見ると八鹿の駅が赤く染まるほど壮観だったそうです。農業と共に歩まれてきた八鹿鉄工さんの出発点がここにあるように感じました。八鹿鉄工さんの強みは何と言っても「研究開発から出荷まで」、完全なまでの一貫生産体制がとられていることです。

八鹿鉄工さんは、20余名を要する充実した研究開発部門からはじまり、タレットパンチ、プレスブレーキ、レーザー加工機、溶接ロボットなど一連の近代的生産設備を多く揃えた製造部、それに管理、購買、品質管理部門などがあります。見学では、「一人ひとりの真心でお客様に価値ある商品を提供し続ける」といった八鉄精神を礎に、創造・先取り・挑戦といった共通の意識のもとで、気概をもって取り組んでおられた姿が印象に残りました。長年、但馬の地で地域と共に発展されてきた八鹿鉄工さんには「確かなものづくり」の原点を教えられた気がいたしました。

工場見学の余韻を残しつつ、黒川温泉に向かいました。この温泉は、知る人ぞ知る秘湯として親しまれています。春の新緑、秋の紅葉と自然がたっぷりの癒し系の観光スポットでした。新緑の春は、山菜、川魚、秋冬はボタン鍋が楽しめます。ここでは、お湯につかり、自然のなかでゆったりとした気分を味わうことができました。また、ボタン鍋を囲みながら、会員同士が情報交換と親睦を深めることができ、大変有意義な一日となりました。

